



会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会

発行責任者 宮島喜文

編集責任者 坂西 清

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号

TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722

ホームページ <http://www.jamt.or.jp>

1 P ~ 4 P : 第 62 日本医学検査学会 4 P : 眼圧測定要望

学会長挨拶



第 62 回日本医学検査学会を担当して

第62回日本医学検査学会会長 野村 努
香川県臨床検査技師会会長

第 62 日本医学検査学会を平成 25 年 5 月 18 日 (土)・19 日 (日) の 2 日間、四国の香川県高松市、JR 高松駅近隣のサンポートホール高松、JR ホテルクレメント高松、アルファあなぶきホールおよび高松市総合体育館 (展示会場) にて開催いたしました。メインテーマは「健康への道標 (みちしるべ)」、サブテーマが「予防医学における臨床検査技師の役割」で主に予防医学を中心とした学会となりました。

1 日目は五月晴れの晴天に恵まれ、皆様朝早くからお越しいただき、受付には一時行列が出来るほどでした。2 日目のお昼頃には雨に降られましたが、最後まで学会は盛り上がり、盛会なうちに終了できたことに感謝するとともに、心より御礼申し上げます。今学会の参加人数は、会員が 2,631 名、そして、全参加人数は 3,201 名でした。

今回の目玉である学会長特別企画「検査診断への展望 (その 1)」では、R-CPC 方式で 2 つの症例を自治医科大学名誉教授の櫻林郁之介先生に提示していただき、東京大学の横田浩充先生、南松山病院の正田孝明先生にナビゲーターをお願いしました。また、日本診療放射線技師会からは昭和大学の加藤京一先生に画像診断の信頼性について論議に加わっていただきフロアーを交えた活発な討議が行われました。

このシンポジウムを記念して、第 62 回日本医学検査学会記念誌編集委員会監修、野村努・正田孝明・横田浩充・香川県臨床検査技師会の臨床検査技師が編集した「検査診断学への展望」-臨床検査指針：測定とデータ判読のポイント-というタイトルの書籍を南江堂から出版いたしました。検査技師の生涯教育に最適であると日臨技の宮島喜文会長のお墨付きをいただいた本で、多くの方に読んでいただきたいとの思いより、税込 7,350 円にて全国の書店にて販売しています。是非とも、職場に一冊、また皆様のお手元に一冊、この機会にこの記念すべき書籍の購入をお願いしたいと思います。

来年の第 63 回の新潟学会では、シンポジウム「検査診断への展望 (その 2)」を、再来年の第 64 回全国学会でも、(その 3) を開催する予定にしており、将来的には「検査診断学会」を立ち上げて、予防医学の見地からも検査診断学を育てていただきたいと思います。

学会では、それ以外にも市民公開文化講演としてジャーナリストの鳥越俊太郎氏をお迎えして「がんと共に生きる」-臨床検査の大切さ-というテーマで講演をいただきました。特別講演、教育講演、フォーラム、シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップ、症例カンファレンス、ハンズオンセミナー、スキルアップ研修会と、充実した学会であったと参加していただいた皆様にお褒めをいただきました。

次回の第 63 回日本医学検査学会は、(社) 新潟県臨床検査技師会の渡邊博昭会長の下、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターで開催されます。多数の会員の皆様の参加により、盛會に開催されますことを祈念申し上げます。



学会を担当して

第 62 回日本医学検査学会 を担当して 実行委員長 多田 達史

第 62 回日本医学検査学会が事故も無く、無事に終了した事に感謝しております。企画から運営、実行までご尽力を頂いたすべての方々に心から御礼を申し上げます。

日本医学検査学会が香川県で開催されるのは初めてでした。日臨技の先生との学会運営委員会、会員が一丸となつての集会や実行委員会、夜を徹して準備をした抄録集・・・色々なことがまだ昨日のように思えます。

学会メインテーマに「健康への道標（みちしるべ）、サブテーマを「予防医学における臨床検査技師の役割」としました。本学会での一般演題数は 608 演題集まりました。沢山の演題を出して頂き本当に嬉しかったです。また、「未病と臨床検査」の指定演題も企画させて頂きました。特別企画としては「糖尿病と脂肪毒性」、「ここまで来た iPS 細胞研究：全ての患者さんに実行できる再生医療への応用の鍵を握る臨床検査」と題した 2 つの特別講演、11 教育講演、6 シンポジウム、2 ワークショップ、2 特別フォーラム、パネルディスカッション、症例カンファレンス、日本検査医学会共催シンポジウム、国際交流フォーラムなど盛りだくさんの企画を行いました。一般公開講座として、「さぬきの糖を知ろう！」と題して和三盆糖、希少糖についての講演、「実践！健康管理」として簡単な運動を取り入れ、会場と一体となった講演、ジャーナリストの鳥越俊太郎氏による「がんと共に生きる」—臨床検査の大切さ—、の心温まるご講演を頂きました。1000 名以上の参加者があり、一般市民への予防医学への啓蒙活動が十分にできたと思っています。

一方、本学会ではメイン企画として、学会記念学会長特別企画「検査診断への展望」を行いました。検査診断というひとつの扉を開けた企画だったと確信しています。

その他、学会前日には 9 スキルアップセミナーを行いました。平日にも関わらず多くの参加者があり嬉しく思いました。スキルアップセミナー受付と同時に、学会前日受付を午後 1 時～8 時まで行いました。600 名以上の前日受付がありました。また、本学会では 21 ランチョンセミナーが盛大に行えました。関係企業の方々に感謝申し上げます。懇親会では約 500 名の参加者がありました。十分なスペースを確保し、さぬき特有の石「サヌカイト」の演奏や和太鼓でおもてなしをさせて頂きました。展示発表会では 80 社以上の企業展示をさせて頂きました。本学会場とシャトルバスで約 10 分の距離にありましたが、スタンプラリー企画を用意し、盛り上げられたと思っています。

今回の学会特集号では CD の内容にもこだわりました。1 ページ、1 演題表示とし、見やすくしました。さらに、初めての試みとして、電子書籍も組み込み、日臨技の協力のもとインターネットを活用し、携帯やスマートフォンで抄録を見られるようにして頂きました。

また、これも初めての試みですが、事前参加登録の特典として、参加費の 500 円割引をさせて頂きました。香川では 500 円もあれば大盛りうどんが食べられます。事前にご登録して頂いた先生へのおもてなしの気持ちを込めた企画でした。参加して頂いた方々は「香川県」と学会をご堪能頂けたのではないかとと思っています。しかしながら、学会の企画・運営を通し、また学会当日にも不行き届きな点もあり、会員の皆様にはご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

最後に、日臨技や香臨技の先生方、ご協力をいただきました企業、関係者の皆様へ厚くお礼と感謝を申し上げます。

次期開催の第 63 回日本医学検査学会（新潟県開催）が盛会な学会となりますことを祈念申し上げます。



第一会場責任者（副実行委員長） 宮川 朱美

第一会場は、当学会のメイン会場として 2 日間を通じて、盛りだくさんの内容の講演等が開催されました。

1 日目は、特別招待講演をはじめ、3 つの市民公開講座、2 つの特別講演、学会長講演および開会式が開催され、特に、ジャーナリスト 鳥越俊太郎氏の特別招待講演「がんと共に生きる」では、公開講座ということもあり多くの方がご来場されました。鳥越氏は、自らの体験談を笑いも交え、患者の立場から臨床検査の大切さについてご講演されました。採便の方法についてのお話は、普段、便潜血反応の検査のみを実施している臨床検査技師にとっては考えさせられるものがありました。

さらに市民公開講座では、ばいこう堂の黒川氏に讃岐三白の一つである砂糖の歴史的な製造方法をわかりやすく講演いただいたあと、香川県で発見された「夢の糖・希少糖」の驚きの作用・はたらきについて、香川大学 徳田教授にご講演いただきました。希少糖は、先日の NHK 「サイエンス ZERO」でもとり上げられており、希少糖の D-プシコースおよび D-アロースの研究は、多くの期待が寄せられています。

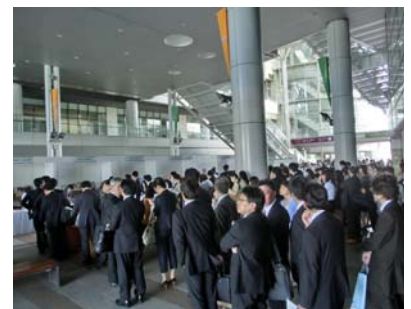
この 2 つの市民公開講座は、開催県である香川県ならではの講演だったと感じています。まさに「うどん県！それだけではない香川県」です。一方、四国学院大学 片山先生による市民公開講座「実践！健康管理」は、楽しい体操？をまじえた参加型の講演で、参加された皆様の「健康への道標」になったのではないかと思います。

また、特別講演 2 「ここまで来た iPS 細胞研究」は開始時間が 17 時 20 分からだったのにも関わらず、旬の話題だけに多くの方が聴講されました。この講演が延長したため、懇親会の開始時間が遅れましたことをこの紙面をお借りいたしましてお詫びいたします。

2 日目は、学会記念 学会長特別企画および日本臨床検査医学会共催シンポジウムが開催されました。学会記念 学会長特別企画では、自治医科大学名誉教授 櫻林先生が提示された症例に対し、南松山病院 正田先生と東京大学医学部附属病院 横田先生の進行のもと、6 名の講師の先生方をはじめとして会場方々も含めた、症例解析・判読における活発な討議がなされました。この特別企画の方式は、私にとって初めての体験であったため、多少とまどいしましたが、櫻林先生、お二人の司会の先生および講師の先生方のおかげで大変良い内容となり、私自身勉強にもなりました。

また、10 時頃からあいにくの天候となり、お昼過ぎには土砂降りの雨でしたが、午後からの日本臨床検査医学会共催シンポジウムを最後まで聴講していただいた会員の皆様方には深く感謝いたします。

最後に、第 62 回医学検査学会全般の運営に関し、副実行委員長としての責務が十分に果たせなかったことをこの紙面をお借りしてお詫び申し上げますと共に、当学会に出席されました会員の皆様、並びにご協力いただきました関係各位の皆様方に心から御礼申し上げます。



総合受付担当 山岡源治

今回、第 62 回日本医学検査学会の受付担当として、学会運営に携わる機会を頂き、微力ながらスタッフの一員として学会に参加できたこと、心より感謝申し上げます。

メインの学会総合受付は、総合案内、参加受付、特別企画講師・座長受付等の 14 のブースから成り、学会前日から 3 日間、香川県技師会員約 120 名のスタッフによって運営されました。学会前日午後から受付を開始し、スキルアップセミナーを開催した効果もあって 600 名以上の参加登録があり、学会初日の混雑緩和に多少なりと貢献できたと思います。しかし学会初日は受付開始から約 1 時間に 2000 名以上の参加者が集中したため、ランチョンセミナーの整理券配付も相まって、混雑を避けられず、会員の皆様、特に参加申込書をご記入いただく必要のあった賛助会員の皆様にはたいへんご迷惑をかけた。この場を借りてお詫び申し上げます。学会 2 日目もランチョンセミナーの整理券配布で一時一階ガレリアから溢れるほどでしたが、参加者のご協力の下、驚くほど整然と並んで頂きスムーズな運用ができました。ありがとうございました。

一方、参加スタッフにとっては慣れない受付業務に大きな緊張を強いられただけでなく、学会本行事にはほとんど参加することができないため、裏方に徹していただく必要がありました。スタッフの割り振り、受付マニュアルの不備や準備不足があり、学会当日は不安な幕開けとなりましたが、香臨技 OB の力も借りながら、何とか無事に乗り切ることができました。会費・釣銭の決算もびったり合いましたし、様々な問い合わせや物への対応、講師の案内や各会場との連携などをみるにつけ、香臨技会員の底力を改めて実感いたしました。今回の学会を通して、香臨技の横の連携、絆を深めることができたのではないかと思います。

最後に、今回の学会に関わったすべての方に心よりお礼申し上げます。新潟県で開催される次期学会が盛会になることを祈念申し上げます。

生理検査部門担当 横内 美和子

第 62 回日本医学検査学会の開催地が香川県高松市に決定し、生理検査部門の責任者であった私には、大きなプレッシャーとして圧しかかってきました。始まる前から気負いしても仕方がない。考えすぎないこと、無理して企画倒れにならないことを心がけて学会準備へ臨むことにしました。



三重県の生理検査の企画がとても充実しており、それに圧倒されてしまい、スタート前からパニックに陥ってしまいました。私たちはどんな企画で盛り上げていけばいいか、限られたスタッフで何ができるか?・・・しかし、めげてはいられません。本学会の前日の、行列のできるスキルアップ研修会 Part IV は充実した内容の研修会にしたいと希望を抱いていました。不躰と思いつつ松尾汎先生にお願いすると「香川県でも血管無侵襲診断セミナーをやりましょう」と笑顔でお話しいただいた時は嬉しかったのを覚えています。多田実行委員長や松永事務局長も快く私の願いを聞き入れて下さいました。

血管無侵襲診断セミナーの講師の先生方は 20 名以上の著名人で企画されており、このような立派な研修会を開催できたことはとても誇りに思います。

もちろん研修会に参加いただいた受講生の皆様あってのお話です。平日にもかかわらず参加していただいた施設の皆様に感謝してやみません。

本学会に話を戻しますと、一般演題が極端に少なく「生理検査はもっと多くてよい、いや少なすぎる」などのご意見もいただき、一般演題の締め切り間際には四国内だけでなく中国地方や東海地方にまで直接電話して一般演題の登録をお願いさせていただきました。

本当に皆様のご協力なくして成功はありませんでした。

皆様お一人お一人には御礼申し上げられず、この場を借りて感謝の意を表すことをお許しください。

18日(土曜日)第15会場、松尾先生の教育講演 11 もかなり盛況で、立ち見のかたもいらっしやいました。ご講演をお願いして本学会に花を添えていただきました。

特別企画の PSG 検査のワークショップは活発な質問が飛び交い、盛会であったことは間違いない。講師や司会の先生方も喜んでおられました。

もう一つの特別企画、超音波ハンズオンも大会前より事前申し込みの問い合わせとか当日も開場 30 分以上前より、会場に並んでくださった方もいらっしやいました。

企画が間違いなかったことを実感したのはこの時でした。

学会本部を立ち上げて開催されるまで、今にしてみれば短い時間だったのかもしれませんが。香川県の検査技師の皆様のお力を結集して、滞りなく本学会を終えることができたことに感謝の気持ちでいっぱいです。遠方より参加していただいた皆様や各関連企業の方々にもご協力いただき誠にありがとうございました。



広報担当 小林万代

今回の学会では、5月18日(土)の市民公開講座、5月19日(日)の無料健康診断の広報を担当しました。

一般の方々への広報としては、地元新聞(四国新聞)への広告を3回、高松市の広報誌に1回の広告を掲載しました。広告の内容や記事の大きさ、掲載時期などについては、担当の方と相談をしながら決めていきました。街頭でのチラシ配りも考えたのですが、労力の割には効果が期待できないとのことで行いませんでした。また、駅構内へのポスター掲示などのアドバイスもいただきました。

どちらのイベントにも、事前の宣伝効果があっただけでなく、たくさんの来場者がありました。公開講座には、1,000名を超える方々がお見えになり、無料検診には一般の方が朝早くから来られて、中には新聞広告を切り抜いて持って来られた方もいました。このような一般の方を対象としたイベントの開催は、まだまだ認知度の低い「臨床検査技師」という職業の PR にも一役買うことができたのではないかと思います。

総合受付の前では、新潟県臨床検査技師会の方々からレルヒさん(日本に初めてスキーを伝えた人)の着ぐるみと佐渡おけさの衣装に身を包み、米処新潟のおせんべいを配って時期開催県の PR をされていました。愛嬌のある着ぐるみは、どこへ行っても大人気のようでした。

今学会では、ランチョンセミナーのお弁当が届かないなど様々なハプニングもありましたが、スタッフの臨機応変な対応で何とか乗り切ることができました。日本一小さな県、香川県の恐るべき底力!を感じました。現在、事務局では学会後の事務処理に追われています。ここでの学会はまだ終わっていないようですが、学会を繋ぐリレーのバトンは、香川県から次期開催県である新潟県へお渡しすることにいたします。来年5月、また新潟県でお会いできることを楽しみにしています。

展示発表会担当 穴戸正史

展示発表会は、車両展示を含む 81 社の出展をいただき、盛会に開催されました。昨年と同様、本会場と展示会場は、シャトルバスでの往復となりましたが、大勢の会員の皆様方に来場していただきました。第 1 日目の 11 時 30 分から、オープニングセレモニーを開催し、宮島日臨技会長、野村学会長、多田実行委員長、池畑善大韓臨床病理士協会学術副会長、實吉テクノメディカ社長を迎えテーブルカットを行い、展示発表会の開催を華やかに盛り上げる事ができました。会場では、スタンプラリーによる香川の物産を含めた豪華景品をそろえ、会員の皆様方をお迎えしました。特等は、島根県の会員に「iPad」が、もう一つ「ルンバ ロボットクリーナー」は岡山県の会員に当たりました。スタンプラリーに参加していただいた 720 名の会員の皆様には出展各社の製品を楽しみながら見ていただく事ができました。来場された会員数は 16,986 名で、スタンプラリー参加者をはるかに超える人数となり、大盛況の中、閉幕となりました。

懇親会担当 高橋 宗孝

第 62 回日本医学検査学会の懇親会を平成 25 年 5 月 18 日（土）JR ホテルクレメント 3 階飛天に於いて開催いたしました。来賓・招待者 97 名、事前登録の参加者 145 名、当日受付会員参加者 189 名、当日受付企業・業者参加者 67 名の合計 498 名の参加があり盛大に行うことができました。

こちらの不手際で開催が少し遅れましたが、プレオープニングに讃岐のカンカン石（サヌカイト）で作られた石琴の神秘的な演奏を聴いていただいた後の懇親会開会となりました。余興ではサヌカイトの「静」の演奏と対照的な讃岐国分寺太鼓の力強い演奏をお聴きいただきました。料理は香川でとれた「おいしいもん」、お飲物はウエルカムドリンクには古代米から造られたリセノワール、そして讃岐の地酒や「いりこ酒」（香川県伊吹島でとれた「いりこ」（煮干し）を炙って地酒にいれたもの）、デザートには他県ではなかなか食べることのできない希少糖スイーツをご用意して皆様をお迎えすることができました。

お楽しみ抽選会では「おいら」（香川県の結婚式披露宴の参加者への引き出物、嫁入りした家の近所へのあいさつを兼ねた贈り物として用いられる。）、色鮮やかな色の水引で作られたブローチ、香川県産の朝採れイチゴを手作業ですりつぶして仕込んだ日本酒ベースのリキュール「さきにごり いちご酒 ほの苺」、デジタル音楽プレーヤー、WiFi タブレットを賞品としてご用意して、宮島会長、新潟県技師会渡邊会長、多田学会実行委員長のご協力により抽選会を行いました。

24 名の方に讃岐でのお土産を手にしていただき喜んでいただけたと思います。

抽選会の後、次回開催担当県の新潟県技師会の皆様による PR が行われ新潟県技師会の第 63 回日本医学検査学会にける熱意がひしひしと伝わってきました。

その後、宮島会長のお話があり、多田学会実行委員長の閉会の挨拶で懇親会が開きとなりました。懇親会にご参加いただきました皆様、並びに懇親会運営にご協力いただきました関係各位に深く感謝申し上げます。

日韓学生フォーラムを通して
金沢大学 保健学類 4 年
永元 健啓

今回、私は韓国の光州での韓日学生フォーラム、香川での日韓学生フォーラムに参加させてもらい、臨床検査技師としての将来の夢について発表させていただき、いろいろな経験をさせていただきました。韓国の発表で驚いたことは、会場の人の多さと発表者のスキルの高さでした。私は最初、オーディエンスは少ないだろうと思っていましたが、予想を遥かに上回っており、座れない人は立ってまで聞いていたことに驚きました。また、発表者の堂々とした立ち振る舞いと発表をみせつけられ、自分との差に正直愕然としました。さらに、スライドの完成度の高さも驚いた点の一つでした。なので、自分の発表が回ってくるときは、自分の発表を韓国の学生がどう思うのか、不安で仕方がなかったです。しかし、発表のときは韓国の学生の話し声が他の韓国の学生のときより小さくなり、真剣に自分のスライドと顔を見てもらえ、さらには話を聞いてうなづくなどのリアクションをとり、最後にはたくさんの方々から拍手をいただくことができました。なので、発表後は安堵したと同時に、韓国の学生が自分の話に興味を持ち、さらにリアクションをとってくれたことが本当にうれしく、発表して良かったと感じました。

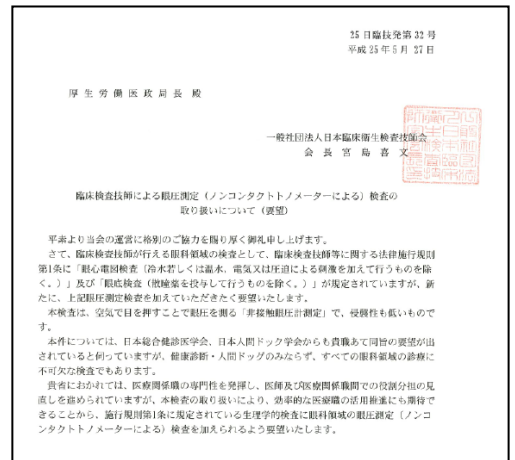
また、今回のフォーラムの全日程を通して、日臨技の方々や他大学の学生から普段聞けないようなお話を聞かせてもらい、かつ、つながりを持たせていただけたことに本当に感謝しています。



業務拡大への取り組み－状況報告－

眼圧測定検査－要望－

5 月 29 日、宮島会長より厚生労働省に、臨床検査技師による眼圧測定（ノンコンタクトトノメーター）検査の取り扱いについて要望書を提出しました。本要望は、昨年実施した業務認証調査でも要望されていましたが、このたび日本総合健診医学会・日本人間ドック学会や日本臨床検査医学会と連携の上、日臨技からも要望書を提出することとしたものです。業務拡大については、これまでに血圧測定が実現し、現在、味覚・嗅覚検査の拡大も詰めの段階に入っており、さらに眼圧測定検査の実現に向かって取り組んでいます。



掲載記事の訂正について

会報 JAMT Vol.19No.6 (26.4.1 号) に掲載した、平成 25 年度事業計画のうち、「I 総務関係 9 国際交流の推進 の 3)」に、今年の AAMLS 学会を、「タイ国パタヤ」で開催と記載していましたが、「シンガポール国」の誤りでしたので、訂正させていただきます。



（編集後記）学会、総会を終え、早くも 6 月、梅雨入りのシーズンです。関東地方まではすでに梅雨入りしています。日本にとって貴重な雨期ですが、早く明けてもらいたいですね。梅雨入りは「入梅」といいますが、梅雨明けは何というか？。「出梅（しゅつばい）」というそうです。あまり聞いたことがありませんが、ワープロ変換では出てきました。明けたら、いざ屋上へ……。

【I.N】

